

登壇者、参加者の声③

個の確立と世間との融和

一市民
新聞記事によるとLGBT当事者の4割近くが性被害を受けているとの調査報告もある。米国司法省の(中略)調査でも性暴力や強盗などの犯罪にあった割合は、LGBT以外は1,000人当たり19人だったのに対し、LGBTは71人と3.7倍だった。専門家は、「偏見が一因になっている可能性がある」とのことである。精神疾患経験者の場合も不自由・不慣れた生活体験を感じておられるとすればLGBTの場合と同様、「偏見」が理由である事もあるのではと思われる。経験談、配布資料によれば当事者に可能な就業、施設などで友人作り、収入の実績で個の確立を実現し、その上の不便不自由は主に公的な制度を活用することにより世間との融和を図り少しでも生きやすくなることが大切なのでは。趣味の役割が大きいことがよくわかりました。

語りを聞いて思う事

職員 犬飼 恵美奈
普段、やすらぎ工房で支援しており、精神疾患経験者の方の事を知っているつもりでした。

それでも研修会に参加し、語りを聞いた時に新しい発見があり、考えさせられる事があります。研修会で語る事になり、過去の辛かった出来事を思い出し、発表の練習をする事ですら、「もう、辛い」と言っている姿も見ました。それでも壇上で立派に語っている姿、こみあげるものがありました。

語りべの方たちの経験してきた事と同じ経験はしていないけど、語りを聞くことで、辛かった時の気持ちに寄り添い、支援していく事は出来ると思います。

知っているつもりではなく、いつまでも初心を忘れず、相手を「知る」事を続けていきたい。そう感じた研修会でした。

研修に参加して

職員 井上 美幸
福祉サービスを上手く利用しながら、社会の中で自分らしく何らかの役割を果たしたり、創作活動を通じて他人と繋がったり、交流を持つことの大切さなど、当事者同士の経験やご意見を伺うことができ大変勉強になりました。

実際に障害と共存し奮闘して生きる姿に感銘を受けました。

研修に参加して

職員 藤田 喜子
やはり友人関係など、人とのつながりからつくることが多いのかと思いました。また、先のことを心配してしまう気持ちがあります。家族はいつまでもいるものではなく、どのように地域で暮らしていくかをもう少し踏み込んで考えていくべきなのかと思いました。

親やパートナーは支えてくれる大切な存在ですが、いつまでもいるわけではない。でもその状況になるとなるとなかなかなる...その言葉で、用意できる範囲で支援を続け、いざその状況になったときに力になれたらと思いました。



太郎のマンガ



濱田 茂雄

お願い ~賛助会員になってください~

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円
(会費は、法人の運営費に充当されます。)
~ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください~
払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。
☎ 0794-85-9990 ・ FAX 0794-60-4533

編集後記

三月末に私以外の原稿が集まっているのに、他の世話と重なり、完成が遅れて申し訳ありません。研修会特集にふさわしく、不参加の市民にも読みがたい内容にと、投稿者の意を損なわないよう、校正に努めました。語る事、書く事で自分の体験や想いを表現することは誰でも至難の業です。

人とのつながりは時に何よりの癒しになり、時に逃げたいしがらみになりますね。それは、与えられた時・場所・機会における動かし難い制約と、ふれあう人の感性和思索によるのではないのでしょうか。(伊東)

今回の通信は、研修会開催後の様々な思いや意見を集約させていただきました。私自身も研修会に参加し、精神疾患当事者の声を生で聞き、共感するところが多々ありました。生きていく中でのしんどさやストレスのかかり方、その時の環境、様々な要因が重なったとき、誰にでも起こりうる特別ではない出来事により、精神疾患や偏見という受けたくない特別な立場におかれることがある...それが社会的障壁にならないよう、環境整備や啓発をしていきたいと改めて感じました。(北上)

そよかぜねっと通信

就労継続支援B型事業所 やすらぎ工房
共同生活援助事業所 そよかぜはうす

〒673-0521 三木市志染町青山1丁目26番地
☎ 0794(85)9990 FAX 0794(60)4533
mail: yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp
URL: http://yasuragikoubou.main.jp/

つながる力 3/13北播・丹波・但馬地区精神保健研修会

理事長 伊東 久雄



兵家連主催で69人の集い

県の委託事業として毎年県下5地区で開催、上記の地区担家族会ほのぼの会がNPO法人そよかぜねっと・あんのん会(障害者支援地域活動センター「みにょんち」家族会)・こころやすらぐ広場の協力で三木市教育センターで実施、コロナ禍にめげず69人(主催者・パネラー含み)が集まった(数字は人数、以下同じ)。

○所属→ 家族19・当事者13・行政7・施設5以上・他の市民12・不明11

○地域→ 丹波市8・神戸市3・加古川市2・宝塚市1・加西市5・小野市3・三木市47

○行政・議員→三木市長 仲田氏・三木市社会福祉協議会会長 植田氏・同社会福祉部長 岩崎氏・同障害福祉課長 井上氏、同市議会議員 古田、松原、大眉各氏・三人の加西市議会議員 アトラクション・摂食障害の稲岡加奈子さんの語りとギター演奏。

——私がコーディネーターで、第一部で「精神疾患経験者が語る”今”～ありのままで共に生きる社会へ」のテーマで体験発表、第二部で発表者間の話し合いと会場参加者と交流。

精神疾患体験から

発表者それぞれの病歴や自立への歩みの人生を語り、作文からも以下に少しだけ紹介。

○Mさん ~高校二年で発症、50歳で一人暮らし~グループホーム「そよかぜはうす」ショートステイ利用。障害年金再申請で2級受給、あきらめないこと!趣味は絵。

○Sさん ~会社のいじめから20歳発症、いま、シングルマザー、娘も精神疾患。最近、好きな習字から書道師範取得——

○Oさん ~26歳統合失調症から今68歳、老人施設でホームヘルパー——その間20回ほど転職、うつになった母と入院した、人権無視の隔離などトラウマが残る——両親のほのぼの会入会、生活保護受給へ、絵を描くことで救われた。周囲の支えあっての今です。

○Tさん ~31歳うつ、ギャンブル依存症から何回も自殺未遂——やがてハイキングで立ち直り、釜ヶ崎で路上生活者支援、セルフヘルプグループ立ち上げへ、95年阪神大地震と出会った彼女と53歳で結婚、夫婦ともに精神疾患。「精神が障害」ではない。

準備してきた成果は

発表体験に共通しているのは、病の苦しみから、何かのつながりを得て力を得ていると思う。また、漫画や絵画の創作、書道の趣味で癒されていること。4人中3人がいま親はいない。第二部で断薬や芸術の意義など、活発な意見交換ができた。

回収したアンケートから「大変よかった よかった」が回答者の2/3、「初めて知ることが多く勉強になった」はその1/2—— 苦労して準備してきた成果はあったと思います

* 3/17神戸新聞三木版に記事掲載

(2021.4.7記)

